

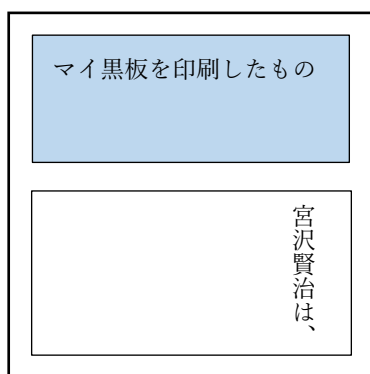
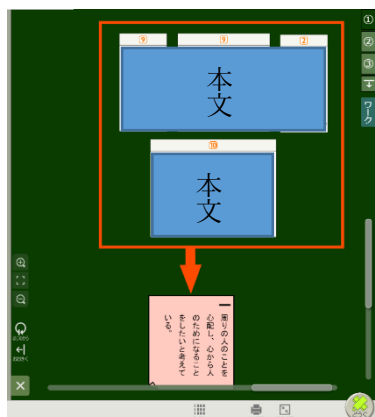
## デジタル教科書の活用

【内容】デジタル教科書を使って、人物の生き方や考え方についてまとめる。

【使用アプリ】デジタル教科書（国語科）

【事例紹介】

第6学年の国語科「イーハトーブの夢」の学習で、デジタル教科書を活用した。「イーハトーブの夢」では、宮沢賢治の言動や出来事を整理し、作者の生き方や考え方、作品に表れた特徴を捉えることをねらいとして授業を展開した。宮沢賢治の言動や出来事を整理する際に、デジタル教科書のマイ黒板を活用した。マイ黒板では、教科書の画面をなぞることで、黒板のスペースになぞった部分が短冊状になって表示される。この短冊は、動かしたり、色や大きさも自由に変えたりできる。また、「どうぐ」の「ペン」や「ふせん」を使うとマイ黒板に書き込める。宮沢賢治の生き方や考え方が分かる言動や出来事を本文から切り取り、それらを整理して自分の考えをまとめる活動を行った。マイ黒板を活用することで、人物の生き方・考え方を叙述から考えることをいつもより意識できた。文章を書くことが苦手な児童も、意欲的に本文から切り抜いた情報を整理してまとめることができた。その後、印刷したマイ黒板をノートに貼り、学びを残せるようにした。 <ノート>



「ぜんがめん」  
↓  
「おおきくする」  
をクリックしてから印刷すると  
マイ黒板を拡大して印刷する  
ことができる。

【終わりに】

今年度、国語科の児童用デジタル教科書が導入されている。デジタル教科書には大変便利な機能が満載である。「書くこと」や「読むこと」などに困り感がある児童にとって、デジタル教科書は効果的なツールと言える。子どもたちの中には、自分に合わせてデジタル教科書が従来の教科書かを選択して使うようになっている。子どもたちは昨年度と比べてICTを使いこなせるようになっている。ICTを使いこなせるようになってきたからこそ、自分でより良いツールを選択して活用できるような環境を今後も整えていきたい。

☆教育委員会主幹講師評 ☆ 今回はデジタル教科書の活用について三つのことを学ばせていただきました。まず、デジタル教科書の適切な活用は「書くこと」「読むこと」に困り感のある児童への効果的ツールとなることです。マイ黒板の有効活用により、意欲的な学習へとつながった報告でした。二つ目はICTを使いこなすということについてです。児童がICTを使いこなす、より良いツールを選択し、学習することについて伝えていただきました。私たち教師もデジタル教科書にあるたくさんの機能を全て使うことが「使いこなす」ではなく、ねらいを達成するために子どもたちの活動を支える材料として「ここは使える」「ここは、今回は使わなくていいかな」といった見極めができることが、ICTを「使いこなす」ことだと考えます。三つ目は、デジタル教科書の活用後には、学びをノートに残すことが大切であるということです。今回も、印刷したマイ黒板をノートに貼り、学びを残せるようにしていただきました。ここが大切だと考えます。ノートやプリントは、保護者にとって学習の足跡を知るツールにもなっています。しかし、デジタル教科書は、端末を開かなければ、学校で何を勉強しているのかわかりません。家庭学習も含め、家庭とのつながり方が大切な今、デジタル教科書が音声付きで「よくできたね」と自動的に花丸を付けてくれても、小学生の子どもが最も喜ぶのは、先生方や保護者の「がんばったね！」という温かみのある言葉ではないかと思います。ICTの有効活用と温かみのある言葉掛けにつながる取組の報告に感謝します。